

## 報告書 菅原一晟

この度、台湾政府からの教育省華語文奨学金を受けることができたことにまず心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

### 【この一年を通して学び、感じたこと】

私の留学前の目標は、台湾人が日本に対してどのような印象を持っているのかを理解することでした。この留学を通して、留学前から私の中で不思議に思っていたことの一つが、少しずつ理解できるようになりました。それは、台湾が親日国家であり、台湾人が日本を好むという一般的なイメージです。留学する前に、多くの人から「台湾は親日国家だから留学には良いよ」と言わっていました。しかし、台湾はかつて日本の植民地であり、その時代には台湾人が差別を受けていたことも事実です。また、日本が台湾を国として認めていない立場にある中で、なぜ親日とされるのか疑問に思っていました。実際、留学を通じて出会ったほとんどの人が日本に対して好意的であると感じました。その際、私の疑問を投げかけると、皆が「日本製品は素晴らしいし、戦争は過去のことだから」と答えてくれました。

ある日、北投温泉を訪れた際に出会ったお年寄りに自分が日本人であることを伝えると、その方は「ここでは日本語を話さないほうがいいよ」と言いました。理由を尋ねると、温泉にいるほとんどの人が高齢者で、その中には日本の植民地時代に育った方々がいて、日本人自体を嫌っているということでした。この経験から、台湾人の中には日本に対する認識の違いがあることを強く感じました。日本植民地時代を経験した方々は、今でも心に傷を抱えています。日本人が台湾を訪れるとき、単に日本人であるという理由だけで歓迎されることが多いですが、その際には傲慢にならず、過去の過ちを反省する姿勢を忘れないことが重要だと感じました。

次の留学前の目標として、私は日本のお笑いが大好きなので、台湾人が面白いと感じる点と、日本人が面白いと感じる点を比較したいと考えていました。台湾でも日本のバラエティ番組が視聴できるため、お笑いに関しては共通の視点があるのではないかと思いました。私が気づいた違いの一つは、台湾には「諧音梗」という、ほぼ親父ギャグに近いユーモアが存在することです。最初は、台湾人と交流する中で私が面白いと思ったことを言ってもあまりウケなかったり、逆に台湾人が笑っていてもその理由が理解できなかったりして、「お笑い」に関して深く分かり合えないと感じていました。しかし、台湾の諧音梗を理解するにつれて、台湾人の友達と本当に笑い合えるようになりました。ある日、台湾人の友達とお寿司を食べに行った際、私がご飯の

上にガリを乗せて「咖哩（ガリ）飯」と言って食べたところ、その友達が吹き出して笑ってくれました。その瞬間とても嬉しかったことを今でも覚えています。

### 【学業報告】

この一年間の学校の授業や自主勉強を通じて、TOCFL の流利級に合格することができました。特に印象に残った授業は古詩と現地の新聞に関するものです。中国語の詩は、少ない文字で作者の感情や風景を表現するため、一文字一文字の理解が求められます。この詩を学ぶ過程で、中国語への理解が大いに深まったと感じています。また、新聞の授業では、日常会話ではあまり使われない表現や語彙を学び、書き言葉に対する理解も向上しました。その結果、現地の博物館の説明文やネットニュース、新聞などを、単語の意味を調べることなく理解できる部分が大幅に増えました。

### 【さいごに】

留学を通じて得た知識や体験は、私にとってかけがえのないものです。この奨学金のおかげで、学業に専念でき、台湾各地を旅行することもでき、有意義な留学生活を送ることができました。改めて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。